

I 第49週の発生動向 (2014/12/1~12/7)

1. インフルエンザについては、患者報告数は58人で、迅速診断キットによる型別はA型57人、B型1人でした。
2. 咽頭結膜熱については、弘前保健所管内で第45週から**警報**が継続しています。
3. 感染性胃腸炎については、患者報告数が前週の160人から227人に増加しました。
4. 伝染性紅斑については、八戸保健所管内で第47週から**警報**が継続しています。

II 第49週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、**警報・注意報**については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		前週からの増減	東地方(再掲)		青森市(再掲)		
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点	
小児科 内科 (90) インフルエンザ	3	0.2			22	1.5	1	0.1	32	3.6			58	0.9	53				3	0.3
(79) RSウイルス感染症	30	3.8	18	2.0	8	0.8	7	1.4	7	1.2	3	0.8	73	1.7	23				30	3.8
(80) 咽頭結膜熱	4	0.5	18	2.0	1	0.1	1	0.2	1	0.2			25	0.6	-21				4	0.5
(81) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	0.8	16	1.8	7	0.7	1	0.2	4	0.7	2	0.5	36	0.9	1				6	0.8
(82) 感染性胃腸炎	80	10.0	40	4.4	43	4.3	19	3.8	36	6.0	9	2.3	227	5.4	67				80	10.0
(83) 水痘	2	0.3	12	1.3	4	0.4			2	0.3	9	2.3	29	0.7	-8				2	0.3
(84) 手足口病	2	0.3			1	0.1							3	0.1	-3				2	0.3
(85) 伝染性紅斑			1	0.1	21	2.1			3	0.5			25	0.6	-3					
(86) 突発性発しん	6	0.8	3	0.3	2	0.2	1	0.2	4	0.7	3	0.8	19	0.5	-9				6	0.8
(87) 百日咳															0					
(88) ヘルパンギーナ			1	0.1									1	0.0	0					
(89) 流行性耳下腺炎			1	0.1					1	0.2	2	0.5	4	0.1	0					
眼科 (91) 急性出血性結膜炎															0					
(92) 流行性角結膜炎			2	0.7	1	0.5	1	1.0					4	0.4	-4					
(97) クラミジア肺炎															0					
基幹 (98) 細菌性髄膜炎	1	1.0											1	0.2	1				1	1.0
(100) マイコプラズマ肺炎					1	1.0							1	0.2	-1					
(101) 無菌性髄膜炎															0					
(82) 感染性胃腸炎(ロタウイルス)					3	3.0	6	6.0					9	1.5	6					

は警報、 は注意報。「空欄」:患者発生無し。

III 全数把握疾患 (掲載数は最新情報)

- ・結核(二類全数把握疾患):弘前1人、上十三1人(2014年計:353人)
- ・腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患):上十三3人(2014年計:24人)
- ・つつが虫病(四類全数把握疾患):東地方+青森市1人(2014年計:13人)

IV 病原体検出情報 検出情報はありませんでした。

感染症の窓

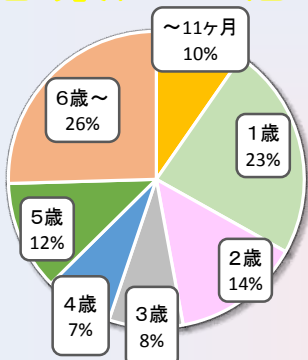


図1 年齢別患者報告数割合(青森県) (N=444) (2013年)

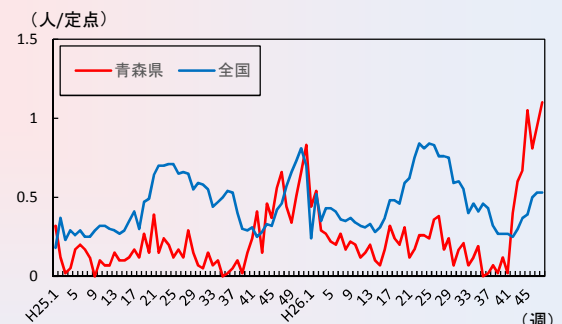
咽頭結膜熱 (五類把握疾患)

咽頭結膜熱は、数種の血清型のアデノウイルスによる潜伏期間5~7日の小児の急性ウイルス性感染症で、発熱、咽頭炎及び結膜炎を主症状とします。本県における昨年の患者報告数は444人で、そのうち5歳以下は7割以上を占めていました(図1)。本疾患は、従来夏季を中心に流行していましたが、平成12年(2000年)以降から全国的に冬季の患者報告も顕著になっています。本県においても平成15年(2003年)から冬季の患者報告があり、平成18年(2006年)、平成19年(2007年)そして平成25年(2013年)には、夏季と冬季の二峰性のピークが見られています。

今年(2014年)の第48週現在での全国における発生状況は、1月から継続して発生し、5~8月にピークを示し9月に減少したものの、10月に再び増加傾向で推移しています。本県においては10月(第41週)

までは全国と概ね同様の推移を示し、定点当たり患者報告数は全国に比べて低いレベルでしたが、10月(第42週)から報告数が急増し、全国レベルを上回っており、今後の発生動向に注意が必要です(図2)。

感染経路は主に接触感染、飛沫感染ですが、その感染力は強力であり、タオル等患者が触れたものを触ることによっても感染する場合があります。予防としては、感染者との濃厚な接触を避ける、手指の消毒の励行、タオルの共用を避ける、などが大切です。



【参考】IDWR「注目すべき感染症」、「感染症の話」

V 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2014年第33週～第49週）

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
33	H26.8.11 ~ H26.8.17	腸管出血性大腸菌感染症4人					
34	H26.8.18 ~ H26.8.24			腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人 後天性免疫不全症候群1人	
35	H26.8.25 ~ H26.8.31						
36	H26.9.1 ~ H26.9.7	デング熱1人	腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症1人	
37	H26.9.8 ~ H26.9.14					腸管出血性大腸菌感染症1人	
38	H26.9.15 ~ H26.9.21						
39	H26.9.22 ~ H26.9.28					腸管出血性大腸菌感染症1人	
40	H26.9.29 ~ H26.10.5		レプトスピラ症1人			腸管出血性大腸菌感染症2人	
41	H26.10.6 ~ H26.10.12			カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人 つつが虫病1人			
42	H26.10.13 ~ H26.10.19			カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人 ジアルジア症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人	
43	H26.10.20 ~ H26.10.26		急性脳炎1人				
44	H26.10.27 ~ H26.11.2					クリプトスポリジウム症10人	
45	H26.11.3 ~ H26.11.9		急性脳炎1人				腸管出血性大腸菌感染症1人
46	H26.11.10 ~ H26.11.16	つつが虫病1人					
47	H26.11.17 ~ H26.11.23			A型肝炎1人			
48	H26.11.24 ~ H26.11.30	侵襲性肺炎球菌感染症1人				腸管出血性大腸菌感染症1人	
49	H26.12.1 ~ H26.12.7	つつが虫病1人				腸管出血性大腸菌感染症3人	

VI 結核(二類全数把握疾患) (2014年第39週～第49週)

単位：人

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
39	H26.9.22 ~ H26.9.28		1	3	1	2	
40	H26.9.29 ~ H26.10.5	1	2	3			1
41	H26.10.6 ~ H26.10.12	2	6	4	1	1	
42	H26.10.13 ~ H26.10.19			3	1	2	
43	H26.10.20 ~ H26.10.26	2	2		2	3	
44	H26.10.27 ~ H26.11.2	1	1	1	1	1	
45	H26.11.3 ~ H26.11.9	3	2	2			1
46	H26.11.10 ~ H26.11.16	1	2	1			
47	H26.11.17 ~ H26.11.23	1	2	3	1		
48	H26.11.24 ~ H26.11.30		4	2	1		
49	H26.12.1 ~ H26.12.7		1			1	

VII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国

(2014年第1週～第47週累計)

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	回腸熱	Q熱	コクジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	ブルセラ症	ポツリス症	マラリア	野兔病	ライム病
累積報告数	23283	4	137	3942	53	15	123	420	16	8	1	1	1	58	12	195	325	229	2	10	1	56	1	15
分類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	レジオネラ症	レプトスピラ症	アモeba赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルトヤコブ病	劇症型溶血性リンパ球減少症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	パピコマイン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	水痘(入院例)	種痘性クリプトコックス症	薬剤耐性アシネバクター感染症	
累積報告数	1092	45	1000	206	400	97	155	240	1356	58	175	31	1521	9	1471	119	46	312	458	194	86	17	11	

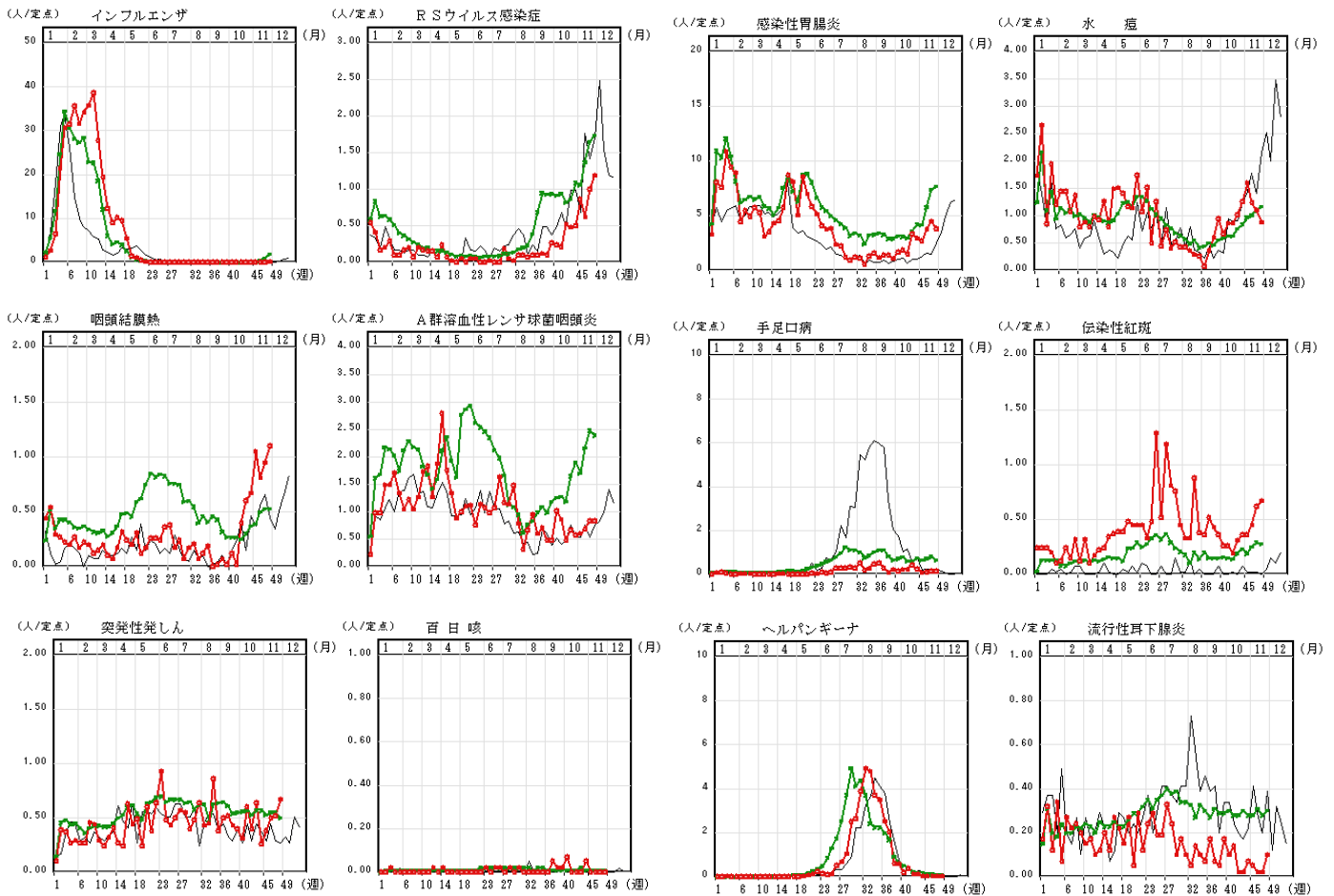
青森県

(2014年第1週～12月8日16:00累計)

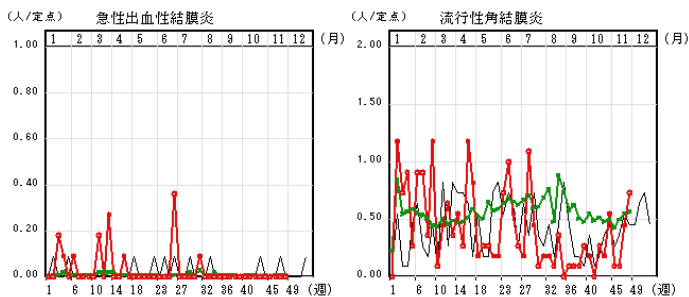
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	レジオネラ症	レプトスピラ症	アモeba赤痢	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルトヤコブ病	劇症型溶血性リンパ球減少症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風	カルバペネム耐性腸内細菌感染症		
累積報告数	353	24	2	4	13	1	3	1	6	10	10	1	1	4	1	1	7	4	1	2		

Ⅷ インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2014年第48週)

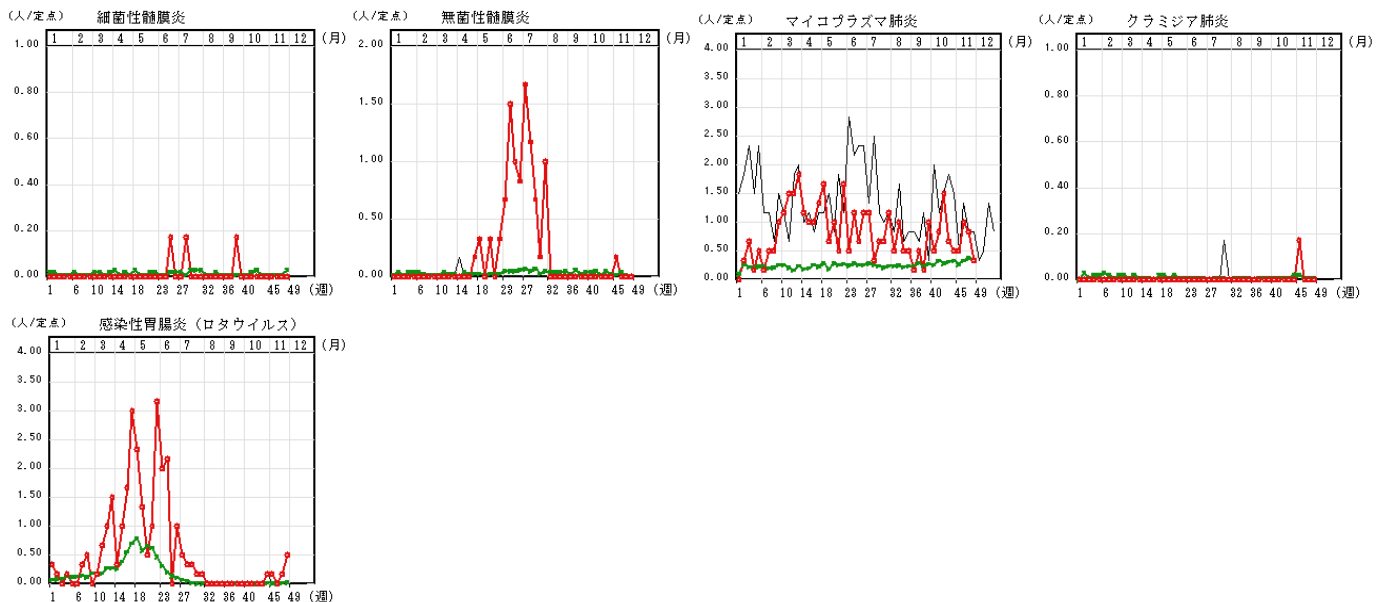
グラフの説明 ○—○は2014年青森県、——は2013年青森県、×—×は2014年全国



Ⅸ 眼科定点把握疾患週別推移 (2014年第48週)



Ⅹ 基幹定点把握疾患週別推移 (2014年第48週)



XI 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成17年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

第49週はありませんでした。

平成26年報告件数及び発症者数														
月(週)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
施設種別		1-4週	5-8週	9-13週	14-17週	18-21週	22-26週	27-30週	31-35週	36-39週	40-43週	44-48週	49-52週	(施設別)
介護・老人福祉関係施設	件数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
	発症者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
児童・婦人関係施設等	件数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
	発症者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
障害関係施設	件数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
	発症者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
その他施設	件数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
	発症者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
計(月別)	件数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
	発症者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0